

薬草栽培だより

No. 112 令和7年9月 25 日

富山県薬事総合研究開発センター

薬用植物指導センター

〒930-0412 中新川郡上市町広野 2732

電 話 076-472-0801

FAX 076-472-0353

薬用作物生産技術確立プロジェクトチーム

1. 気象経過と季節予報

月平均気温は、7月は29.2℃(平年比+3.7℃)、8月は28.8℃(平年比+1.9℃)と平年に比べかなり高くなりました。月降水量は、7月は31.5mm(平年比13%)と平年に比べかなり少なく、8月は333.5mm(平年比161%)と多くなりました。

向こう1か月の季節予報では気温は平年に比べ高いと見込まれます。また、降水量は平年並と見込まれますが、降雨後、雨水が停滞しないよう、ほ場内の溝と排水口の点検・補修をしてください。

2. シャクヤクの栽培管理

(1) 1～3年生株

ア 茎葉の処分及び追肥

枯れ上がった茎葉には、斑葉病等の病害の胞子が付着し、来年の発生原因となることから、できるだけ地際から刈り払い、ほ場外に搬出して処分してください。

追肥は以下のとおりに施用してください。

(施用時期 10月：10a 当たり)

1年生株(植付の翌年)	発酵鶏糞	150kg
2～3年生株	発酵鶏糞	300kg

ビニールマルチ栽培の場合、発酵鶏糞は鎌等でマルチに穴を開けて植株の中間に施用してください。

(2) 4年生株

ア 掘り取り(収穫)の目安

薬用品種は、栽培年数4年を経た株を掘り取り、根を出荷します。1株当たりの茎数は20本、生根重量が1.5kg位を目標としますが、生育量が不足している場合は、掘り取りを翌年にしても構いません。ただし、5年を超えて栽培すると根に「す」が入り、薬用としての品質が低下するのでご注意ください。

イ 掘り取り及び出荷調製

9月中旬～10月中旬頃、タガネ等で株を2～4個に分割し、スコップや鍬等で根ごと掘り起こします。芽の付いた株からゴボウ根を外し、ガラ袋などに入れます。出荷まで保管は、根が絶対に乾燥しないように、日陰の涼しい場所で地面に直接置いてビニールシートを被せるなどし、根の表面が白くなるなど乾燥しそうであれば軽く散水します。出荷期間は10月中旬～11月中旬で、準備が整った生産者の方は、当センターまでご連絡ください。

掘り取りが初めての方は、掘り取り調製方法について、別途ご案内する研修会(本だより末尾参照)でご説明します。研修会にお申込みの上ご参加ください。

(3) 新植

ア ほ場の準備

額縁排水溝の設置と排水口への連結など、事前の排水対策を実施した上で、基肥(10a 当たり)に発酵鶏糞300kg、苦土石灰100kg、過磷酸石灰60kgを全面に施用し、よく耕耘します。1条植えでのうねサイズの目安は、うね幅：140cm、うね裾幅：80cm、うね高：20cmです。うね立ては収穫作業の前に完了するようにします。

面積が1aより大きい場合は、雑草対策のため黒マルチ(厚さ0.03mm)の被覆(ビニールマルチ栽培)を推奨します。

イ 苗の調製

出荷調製後の芽の付いた株から、植付け用の苗を調製します。苗当たり3～5つの芽が付くように、頭根部を分割します(写真)。

苗にはゴボウ根を付けず、新しく出た根を収穫出来るようにします。

苗には、根黒斑病や根こぶ症状などの無い、健全な親株を用います。また、生育不良株からも苗を採取しないようにします。



写真：薬用品種「梵天」の苗

ウ 苗の定植

定植が遅れると新根の発生が不足し、翌年の生育が不良となることから定植は地温の高い 10 月下旬までが望ましく、やむを得ず遅れる場合でも 11 月中に行ってください。

株間は 40～50cm とし、芽を上にして苗を植え付けます。覆土は 3～5 cm とします。ビニールマルチ栽培の場合は、風によりマルチがずれないように、植え穴に土を被せてマルチを押さえます。

3. トウキの栽培管理

(1) 抽苔開花株の抜き取り

花が咲いた株は根が細くなり、薬用になりません。抜き取っては場外で処分してください。

(2) 追肥 (10 a 当たり)

ダニによって葉が全部枯れた株でも根が残っていれば、葉が再生してきますので、あきらめないでください。9 月下旬頃硫酸を 20kg、又は尿素を 10kg 追肥し葉の生育を促します。まだ、2 回目の追肥を施用していない方は、すぐに化成肥料 (N:P:K=15:15:15) を 20 kg 施用してください。

(3) 掘り取り調製法

①掘り取りは、11 月に入って、葉の先端部が少し黄色味を帯びた頃に行います。長く置けば根が充実しますが、富山では冬のしぐれがあり、作業性が悪いため、ほ場の面積、作業量を判断して、11 月下旬までに掘り終えるようにしてください。

②葉を付けたまま株を掘り起こし、根の土を払い落とした後、3～4 株ずつ束ね、風通しの良い所 (雨が直接かからない軒先等) でハサ掛け (稲架掛け) のように干し、自然乾燥します。

③掘り取り後、根を積み重ねると数時間で堆積発酵し、中心部分が腐敗する原因になります。腐敗が始まると次第に全体に広がり、多くの部分を切除しなければならなくなります。手間がかかり、大きな損失となることから、ハサ掛けまで時間を置く場合は、地面に重ならないように広げて置きます。

④ハサ掛け後は翌年の 2～3 月頃まで、そのまま自然乾燥しますが、途中、土が半乾きになった頃に、はたいて土を落とし、乾燥しやすいようにします。

⑤この後、生薬に仕上げるには「湯通し」の作業が必要です。設備がないために作業ができない場合は、この作業を行う前の状態 (一次乾燥根) でも出荷できますが、可能であれば「湯通し」を行い、増収を目指してください。初めて「湯通し」をされる方は、当センターへお問い合わせ下さい。

4. 種苗の販売について

当センターでは、薬用植物の栽培普及のために、本県で出荷可能な品目の種苗を生産・供給しています。希望される方は当センターまでご相談ください。

5. 薬用植物指導センターからお知らせ

(1) シャクヤクの収穫調製研修会

日時 ①上市町会場：令和 7 年 10 月 9 日 (木)
13:30～15:00

②砺波市会場：令和 7 年 10 月 17 日 (金)
13:30～15:00

場所 ①上市町会場：薬用植物指導センター
(上市町広野 2732)

②砺波市会場：富山県園芸研究所
(砺波市五郎丸 288)

申込 富山県農林水産部農産食品課
電話：076-444-3284 FAX：076-444-4410

(2) 薬用植物講演会

日時 令和 7 年 11 月 28 日 (金)
10:00～11:30

場所 薬用植物指導センター 研修室

演題 (仮題) 「奈良県における薬用作物の
生産振興について」

講師 奈良県薬事研究センター

統括主任研究員 西原 正和 先生

申込 薬用植物指導センター

電話：076-472-0801 FAX：076-472-0353